

次

※ 6.7月期総括

※ 田号部解放斗争報告 P4~6

※ ベンフ「研連NO3」から P7~8



6-7月期の駆逐を打ち固め

卷之三

生の尊の御子のまゝ、ノーワール園の方へ入る。右の入会門を通りて一番教室に於いてア時
灼熱な外に猛暑前より争うて誰か、私達正部ガーラーク。二〇分前後にして、直ちに講事に入つて、いた。
は用意的では取扱ひを競ひつづける。そこで、間も無く、議長の進出と議事は進行して、議長に
の隊列を贈り事なく、日本國場に於ける前勤と役者は御所の御用に選出され、朝向西からの講堂
前に於けるガーラーク規則を推進し、ヨリモに強固な、音響起反が、めでたし。裁若、告教、相
互堅を展開して、います。私達はここに多くの未熟、約改正と議論提唱がなされ、ゆくガーラークに歸る
の側面を残さない。私達は、の出発度じらの意旨想起れど、又行けり。予
しての、又私達の自分自身の誤見としてこの「アラビア書院」を申に上回りに随道に於けるを認
研君等云しの筋旨と終焉を行つて、いたいと考えます。又、引き続ぎに行めれ、いにこの〇四正部園部
ス、〇五正部院部での筋旨と終焉を頃らねにして、モニシテレーミヨシをとつて終えて、いた。
いふをそつて、正部正部ガーラークの展望を身に（正部の筋旨の兩種ニコース前易參照）
にして、いたいと想ひます。
するを最も多くてこの文を説明して、いたのを、吾は云つて、この〇四正部院云々吾等にとつて
そ詔文既に認められて、いたと考え、以下、簡単に下へいきゆる位置をしめていたが、又連に書くねい文
に於ける過程を並進し、吾々が行者、恭順の如く、

（1） 憲法書作成自体をさる事ながら、とども大
臣に於ける憲法書提出が全文を読み上げ
られた。即ちその表記評論に於いて「吾等の
國は即ち以てそののであり、之が年年更なる
内省を改めればそののである。吾等が今更
に改めて之を以ての事は、實に事実上も子孫に
引き継ぐ事よりは思ひ難いものであつた。吾
は且つサーワルに之とて、文書通りそれ以前の舌証内
閣は即ち以てそののであり、之が年年更なる内省を
改めればそののである。吾等が今更に改めて之を
以ての事は、實に事実上も子孫に引
き継ぐ事よりは思ひ難いものであつた。

は要へて、こゝに行動的問題である。講演の題題
は「原點の前進としての行」で、議論はなぜばつた
フルルの「原點をもとめて行」で、議論はなぜばつた
ラカ。漢書漢書を貰ひ上げて其原點を満すよしを、
議案書を配付する事」「よ」て必燃然めに訂正を差
さる。「すような、どうい」と議案書を作成され
せ方、た事に「そ簡単がある」と考へる。
⑥税納改定につけても姑どり、「二一程」準備
討論がたけつて、自治会の原點が大會に於ける
とすれば、規範は自治会運轉を律し、又守るも
のである。吾々は、六代の會に於ける、正義研、
教研、歴研、理研等々のサークル會による意
見をより其地深化して、規範の確立が改正案を創
り出したこと「がねばならぬ」だう。
〔前記の点にとも限らぬよう、西々駆行季の太
谷先生一派君は、まさに「りゆきまかせ」といっ
た、或いは没身体能な、自らが研究運動の「教
とば」を前に建設していくかねばならぬ責任
性の自覚にたけた個體が色濃か、たゞいええび
あろう。しかし、もう一歩執行委の未熟さを
ええこいつには多く

の本腰田久義先生大會の祝賀會で講演した
の報告と御謝意

て語り合はれて、吾々は、實に以前の如きの事例で嘗めた、「二十世紀の政治家」としての成績を達成し、つゞく「新時代の政治家」等には、危機として、たゞ文部の管轄下にいたが、必ず見出される事である。田辯新執行委員長（アーヴィング）の、在錦町での子どもたちとて終るに、たゞ文學大は、眞に國の内閣につてこも絶りオにつてこまでは不詳、眞に私を育てておるが、その恩恵を不可能ではあるまい。

予前より一通に送るに於ける時詔は、五三國教育院にてて御新官が御開院式にて、御中大執行を各々の識識配属の後、日下、研建、實、古、正文三年、實々々公派発遣は應應、足滿が出来られ、吾々研修執行者は、討論のまとまりがつかず、太云考任といふ没主體的勤め形しかどうぞさうえなかつたに對讀がござ候た。

陸同僚苑吉堂大は成立の裡に終り、たゞ討論の確立をなさなかば、「補足給稿」などに、フランス詩、講、オーバー評議論と向義されねば、たゞなほ落胆してゐる。昨年前期の種類した三つの大會は、吾々自治会の原點、出来事として位置してゐる。

吾々自治会の原點、出来事として位置してゐる。

北太公の娘、吳昌碩先生の「大会金桂社」(五
四百に達する支拂する星宿部、宇文と共に、之
文字どおりの回号銀盤を取扱う半生で、多くが
卓友の注目下、即ち名近ノトコ高間部君より
之を結びて「勝利的」に差しつけ、「弓
箭前進会」(同時並行して)開催の「競馬」、校
力大戦、攻撃権、回弓等競技実力解除一途
意を定めし下部隊も合流し、「四頭船解放」
の、「新齊」(こなき)ヨールヒビンズ・アーヴィ
ーションは国産競馬へと實現し、これが大興
的効果を發揮する所では、此處當局の御用意
思せし所也。而して三月十四日、神田深松服販
庄より、第一回業界命で勝し、其結果、
女體士官の四百四十匹出走然也。
明大兩院、學内監理院、配供院等尚ほ正規の
日本人士口の運送者たる所、乃当局の封鎖令
風刺詩一通讀取、口承の如く、腰帶に懸ひに七中
一から六の斗二升が「少」(少)と商ひ、腰帶に懸
山口の少の四半斗、腰帶に懸ひに六升が「多」(多)
乃は大學を危険を冒す、斗六升タダ金封鎖令、指
の機、かざり、設置する事務官の胸の内

山陽館解放斗争報告

「四号館解放斗争報」
そのうすい毛筆で記され、そこにはいつも争ひ
切る中で圓鏡所指揮の「尾」としての命令書、續り中
蓋團體用で他の要領も記述して居て、藍墨色の墨
マサニヒリメハテガタリカツルに付けられたる断片
事件本拠の下、劣者等を打撃する力一回に過ぎず者、其
所を暴合スリ、アツク、アツクの西田、又身着し國服
奴アリ拂却後と全體封締する中、又昇殿、戦斗的
に引けられたる事無事無事の前臣をこじら
れし、又馬鹿に御走せりに告げ、皇帝の一方の
「要」としての通り、右云ふ時、時局内にたゞ差しに制
御、行持で此ぞアリ且都が可向化現の如きの測
の安堵と危害をねける心の過誤、既とち悉く駆
をあつて、乃致勝り斗争の過程、新、老、豪傑云
雷々通車の金を募り刀甲賊へとりりけり、亦勝生々
廊上に運用して、即日急急の、尙餘とこそぞは也
の目的として、その後の甲兵を海外廻して、即ち彼
さてこのことの實体するそのを讀に即きゆめく
させられと似じて、問題の本體を意図的に窺ひやく

正ところでの暴力の煽しお由をそつて当局は、我口に刃力!! 桃山院のテロ・リニ干を發し、4号

仁ところを「東方の鳥」の由をつて当局は、我々に内閣總理大臣の手で、一千を費して、4号電を完全復讐してしまつた。今現在も、この電力「ワレ」と云ふ口づけで、常に用ひ当るの竹のワレを切るの油壺であるといふえる。

ややそぞりは、懷舊的に昔錆びたローラル看板の意象のみで、是争奪争を直覺する原因も生じやうになつて見受けられに云ふなら、こうして既得的なり、反対的エカルギーの重荷、既得性を向むけてゐる。又電費封鎖の本意が正確に貿易と田宅と、すなはち百年事業をメルワマールとしてキヤバニベニテモ歎止正詔院止、近代化合理化、諸税を行なつた所蔵地主とてあつた乃丘商團のスル内直上の実権的難行過程に於ける源工斗争の一挙勝利は、實質的要事とし、即ち帝國政府日本の民主主義化、整とし、そして昭文大業の主張を、即ち幕府行進の前提、前段階とての、ワレ、ガーラー、ノル、般舟會、身体改革、つまり、我々の自ら活動の存在事體、即ち、一、次々シヘ

一擧の大彈圧反対して来た。我々は、ここにハツキリと当局の姿勢、すなへて、学生の向上的自主活動の庄屋¹＝当局の近似²合理化路線に抗する学生の排除³＝当局の近似⁴飲食封鎖の完全固定化のためなら、手段を遺⁵局の姿勢を、ハヤキリと認めた。

この辺の辻の眞鍋中に、当局の手によつて、引き寄せられた而連の一時主張員を、文部省は不當逮捕にして、監禁、公務、傷害の容疑で留置場へたたきこまされるといつ事能あつた難だらえ最初に留置せねばならぬにことは、此の真鍋にによるが、この全體的抗斗争の地平で落としていた所との、細胞の本性あるのは当然の不充份性云々と後退的集団に走るのを恐れるのである。乃ち、實力斗争の全般的地平の堅持一貫となりつつ、当局一極化の不當弾圧徹底封鎖の、又教対活動を最大限發展する中で、そつて、「权力のX-1」として、賄じた事後強压を絶対化され、其の再犯策め、找くの「力」をつくり、田男銀⁶・学飯銀⁷を、解交勝利するところ又は、この辺に現れる。

ハンフ「けんれん」(3)発刊に向けて

刊に向けて

卷之三

（活動目的）と云ふ提起／この会員シナソフ「けんれん」の易縫集小委員会と云う名前を持つてゐる以上、そのオーナーは自的次へけんれん（）号の縫集、発刊にあることは云うまことない。各サークルや執行委等の文集を集め、縫集で、発刊して行く作業は当然のこととしてある。こ次に、最高層のことではないのである。それだけに各サークルから一名次の委員会を募集し、会議を設定して討論が必要である。昨年のハーフ委活動を通じてハーフ委は次の如く自らを変革させ、また自らの存在意義を見出していく。つまりリーダースキンヤンガ実行委の残務処理残闇タラ執行委の消去校閥へ更に執行委と同次元の運動する校閥へ、ヒーリング体→建設運動である。そこでやめてやつを結集軸、武器とした頑健の結合回路校閥とて創たる創造を始めたのである。この方向をして、交流、つまりソーサークル——委員会——小委員会で

筋肉を強める。ヒゲを引きなすほどでなく、筋肉を大きくする力として作用されることは、筋肉の強化による筋肉の活性化であると思われる。本年夏季の筋肉強化は、四年連続筋肉に見られる筋肉が筋肉を大きくなる筋肉である筋肉である。筋肉の筋膜の強化により筋肉を大きくする筋肉である。筋肉の筋膜の強化により筋肉を大きくする筋肉である。

第一回会議で全てサーティーハーフがバーンバーンを行った。乙年されしも、實際ガバーンバーンは有名なサークルである。最初に所トバモ販會とサーカルのバイブル役とての委員会リラ風に書いたるが、少しして、これがして、その最も全て在りとて、う事は、何をいふか。それが、現地に付けるべき事は、意匠本には、すれど、どの浦、他のサークル員が、在りて、袖うよう古システムを作り立してほしやうである。

サーカル裏方誰が出てきてもモーリーであり、それを人を出でて、乙年交流、交換がなされようよ、な物で、また、各サークルは、販賣士として、年

教教相限